

一、次の1～8の——線をつけた漢字の読みをひらがなで、カタカナを漢字で書きなさい。

- 1 季節外れの春の雪が降る。
- 2 やかんから湯気が出る。
- 3 動物写真家として頭角を現す。
- 4 選手をイクセイする。
- 5 暗い気持ちをカイシヨウする。
- 6 キテンをきかせて危険からのがれる。
- 7 家の戸じまりをゲンジユウにする。
- 8 赤い花と青い花をコウハイする。

二、次の1～4のそれぞれの——線の中で、ことばのきまりの上で一つだけ種類が異なるものを選び、記号で書きなさい。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 ア 嬉しくてとんだりはねたりする。 | イ 雲一つない青い空だった。 |
| ウ 友人の出身は青森だ。 | エ 外はさぞ寒いのだろう。 |
| 2 ア 君のような人がふさわしい。 | イ 水が流れるように話した。 |
| ウ まるで太陽のようだ。 | エ 制服はきちんと着よう。 |
| 3 ア 飛んで火にいる夏の虫。 | イ 花の香りをかいでみよう。 |
| ウ 先生の話で元気づけられる。 | エ わたしと一緒に遊んで。 |
| 4 ア 台の上に乗らせる。 | イ 絵をかかせる。 |
| ウ たくさん勉強させる。 | エ わたしは英語を話せる。 |

三、次の詩を読み、後の問いに答えなさい。

だれも乗らないバス

やなせ たかし

バスに乗ったら空っぽだった
だれも乗ってこなかった
ぼくはなんだかうろたえた
ぼくの降りる駅はすぐきだが
ここで

ぼくが降りたら

バスは空っぽになる

むだに走ることになる

① だれかひとりでもお客さんが乗ってくるまで

ぼくは乗っていることにした

しかしどの(注)バスストップでも

だれひとりとして乗らなかった

② 雨が降ってきて

街はさびしそうな感じになり

バスは肩をすくめるようにして

恥③ながら走っていった

そして

とうとう終点へきてしまった

④ 運転手はぼくの顔を見て

てれくさそうに笑った

弱点をさらけだした同志のように

⑤ ぼくも笑った

注 バスストップ Ⅱ バスの停留所

- 1 線①「ぼくは乗っていることにした」とありますが、それはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。
ア 他のお客にだれにも会わないでバスを降りてしまうのは、寂しい気がしたから
イ バスがお客を乗せないで走るのは、エネルギーのむだになってしまいうから
ウ だれもお客のいないバス路線は、いつかすたれてなくなってしまうから
エ 「ぼく」が降りると運転手の給料が下げられるのではないかと心配したから
オ お客が一人もいないのでは、バスも張り合いがなくなるだろうと思ったから
- 2 ②にあてはまることばとしてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア きびしい イ ちいさい ウ あまい エ おそろしい オ つたない
- 3 ③にあてはまるひらがな三字を書きなさい。
- 4 線④「てれくさそうに笑った」とありますが、これはどのような気持ちを表していますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。
ア 「ぼく」がなぜ終点まで乗っていたのか理解できない気持ち
イ 「ぼく」が降りる所を間違えてしまったことを、おもしろがる気持ち
ウ 「ぼく」がこれからどこにいくのだろうと興味と得意を持つ気持ち
エ 「ぼく」がバス好きであることを見ぬき、親しみを持つ気持ち
オ 「ぼく」が終点までつきあってくれたことに對する感謝の気持ち
- 5 線⑤「ぼくも笑った」とありますが、ここからどのようなことが読みとれますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。
ア 人のために役に立ちたいという運転手の思いと、「ぼく」の気持ちたちが共通するものということ
イ かくれてした親切が見つかされてしまい、「ぼく」の親切が結果的に失敗だったということ
ウ かわいそうなバスにしてあげた親切が受け入れられて、「ぼく」はほこりに思っていること
エ 結局「ぼく」のほかにはだれもお客が乗らなかつたくやしさを、まぎらわせているということ
オ 終点までずっと一緒にいるうちに、運転手も「ぼく」も優越感を味わっていたということ

四、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

私が初めて日本で暮らした地は東京の東村山。その周りの雑木林は明るく、山菜とキノコがたくさん採れ、子どもたちが元気に遊んでいました。それはきちんと森に手が入れられていたからです。

しかしその雑木林でも、^①手入れをしなくなると、成長しようとする枝の中で負けるものが出てくる。やがて成長が止まり、病気が入りやすくなり、日本の繁殖力の強いツルが木を絞め殺すのです。途中で折れた木は、そこからまた枝を伸ばそうとし、ツルもさらに上へ伸び、三十年もするうちに明るかった雑木林は暗いヤブになる。人が歩けない、鳥も飛べない。光が入らないからさまざまな生物が死に絶える。

日本は北海道から沖縄まで、かつての里山の風景は一変しました。また、同じ木ばかりをびっしりと植林した風景もよく目にします。建築材料として真つすぐに伸びる杉などが非常に多い。しかし、この人工林は込んで植えられているうえに、木の枝や葉がびっしりと覆っているので、手入れや^{（注1）}間伐をしないと土に日が当たらず草も生えません。すると土が死んで地肌がむき出しになります。台風や大雨が来ると山崩れがおきやすくなります。私の知人は「山が死ぬ」と言っています。

木は必死になりますから、生き延びるために花粉を大量に遠くへまかなければなりません。都会に住む人も、この花粉には悩まされているでしょう。

日本は森の国です。その森は多くの種類の木々が育つ原生林であるからこそ、さまざまな可能性を持っているのです。原生林はこの国の自然の銀行なのです。しかし今の日本の原生林は森全体の二％しかない。的の外れた植林をしている^{（注2）}省庁ばかりを責めているではありません。山や森を持っている企業も目を覚まし、本気でこの国の森を生かして欲しいと思いますね。

私は以前、いろいろなビジネスマンと森の話をしたことがあります。森の手入れをすると鳥が増える、花や木の実が増え、キノコが採れるなどなど、本当にたくさんさんの内容を語り、彼らが感動してくれていることが私にも伝わってきました。ところがその中の一人がこう言い放ったのです。

「うちの会社にはもっと広い森があるけれど、手入れをしたって金にはなりませんから、やりませんね」

その一言で私の一時間半の努力が水の泡になりました。実はこういう発想こそ、いまだに日本のビジネスの主流であることが事実なのです。悔しいですよ。すぐにお金にならないことは放り出しておく。自分のトイレを掃除しないのと同じことです。

森は太古の昔から人間を生かしてくれた。^② 私たちは森に入ると心も体も癒やされます。^{（注3）} DNAにそれが組み込まれているのです。その森の持つ力を^③ ビジネスとして着眼することはできるはずです。

私の住む長野県・信濃町は、他の日本の田舎と同様に人口が減っている。でも、黒姫の森の周辺は、若い人やリタイアした人々がいい環境を求めて居を移し、人口が増加して土地の価格も上がっている。森を活かして経済につながる可能性に眼を開いて欲しいと思います。

私は一九九五年に日本国籍を取得して日本人になりました。日本のよさを言ってごらんと請われれば百ぐらいは簡単に教え

上げられます。日本人の優しき、誠実さ、勤勉さ、長く培われた文化。いくつもすばらしいことがあるけれど、自然の豊かさ、厳しさ、四季の美しさ、そしてそれを存分に知り尽くし、愛してきた^④日本人の力量にも尊敬の念を抱いています。

初めて来日したのは二十二歳の時でした。空手の道場に入りましたが、やがて町中で暮らしていることが苦しくなってきた時、もともと^(注4)大陸浪人だった空手の先生が、私の様子をよく理解してくれました。北極探検に行っていたような男なのだから山へ連れて行ってやれと、弟子である大学生たちが冬山へ連れ出してくれたのです。

彼らの装備はブランド物など一つもなく、黄茶色のキャンバス地の丈夫な素材。あとは簡単なストープを持って冬山に入り、雪洞を掘りその中に泊まりました。あの当時、日本にはごく当たり前のようないくつた逞しい若者が存在したのです。

その時の体験を私は日記にこう書いています。「僕は日本に生まれたかった。そうすれば探検家になるために大変な苦勞をしなくてすんだだろう」と。

あの^(注5)小野田寛郎少尉が二十九年間もの長きにわたって、フィリピンのルバング島の山中で生き延びることができたのは、まさに日本人が優れた^(注6)フィールドワーカーであったからです。しかし、小野田さんは日本人がすっかり^⑤自然音痴になったと嘆いています。実は、ついこの間まで日本にはフィールドワーク文化が息づいていた。その土台は、山や里や海で元気に働く第一次産業に従事する人々でした。あの若者たちはその知恵と逞しさを見て育ったのです。まだ遅くはありません。体得した方々はまだお元気でしょう。その技術を受け取らなくていいのですか。

日本人は日本が持っている自然のすばらしさに、十分に気づいていないと私は思います。北には流水が、南にはサンゴ礁がある国なんてめったにないでしょ（笑い）。テロの心配がない治安のよさ、交通機関がすみずみまで発達し、そして人々が^(注7)ホスピタリティを持っている。地方の文化も自然も保たれています。地元の若者をきちんと育て、自然を案内できるように力を注いだら、おそらく日本は世界有数の^(注8)エコツーリズムの中心になるでしょう。

この二、三年、北海道のスキー場には南半球のオーストラリアなどから多くの観光客が訪れています。中国やアジア、インドなどの富裕層もまた、安全で快適な観光地を求めている。日本こそ彼らの希望にかなうでしょう。だから、受け入れのための教育をきちんと始めるべきなのです。

私も自然公園の^(注9)レンジャーを育てるべく専門学校などで努力してきましたが、まだまだ日本では机の上の勉強が重要視されてしまい、どうしても人材が順調に育たない。しかし、自然の中で働きたい若者は増えています。

^⑥自然の多様性はこの国の可能性です。もう一度日本の山や海で若者が働くことができれば、本当に美しく、逞しい国になるでしょう。

英国は環境や有機農業を中心に地方が元気になっています。日本の政治家も役人もそろそろ気づくべきだと思います。

(朝日新聞社編「仕事力 金版」(掲載部分はC・W・ニコル「意識の中にも自然を取り戻せ」による)

注1 間伐 Ⅱ 森林などで、不要な木を切ってまばらにすること

注2 省庁 Ⅱ 財務省のように名前に「省」のつく役所と、消費者庁のように「庁」のつく役所をまとめた言い方

注3 DNA Ⅱ 細胞の中にくまれる遺伝子のこと

注4 大陸浪人 Ⅱ 明治から昭和前半期まで、中国大陸各地に居住・放浪して、種々の活動を行った日本人のこと

注5 小野田寛郎少尉 Ⅱ 太平洋戦争中にフィリピンに派遣され、戦争終結後もそれを知らず、森の中で生き延びた元日本兵

注6 フィールドワーカー Ⅱ 野外など現地での実態にあった調査・研究をする人

注7 ホスピタリティ Ⅱ 心のこもったもてなしの精神

注8 エコツーリズム Ⅱ 環境問題に重点を置きながら、自然と調和した観光開発を進めようという考え方

注9 レンジャー Ⅱ 森林や国立公園の監視員や管理員のこと

1 線①「手入れ」とありますが、筆者の考える正しい方法は何ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 雑木林の中から生命力の強いツルをすべてなくす。

イ 雑木林の中を人が歩けるような道路を作る。

ウ 景色がよいように同じ木ばかりをびっしり植林する。

エ 木の枝や葉を間伐して土に日が当たるようにする。

オ 地肌がむき出しになっている部分をきれいにする。

2 ②にあてはまることばとしてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア あるいは イ だから ウ しかし エ つまり オ なぜなら

3 線③「ビジネスとして着眼する」とありますが、これはどのようなことを指していますか。次の中からふさわしいものをすべて選び、記号で書きなさい。

ア 森林の奥まで入る自動車道路を作り、多くの観光客が森林に來られるようにすること

イ 森の木をまっすぐに伸びる杉などに植えかえ、その木を建築材料として高く売ること

ウ 森林の手入れをして、里山のある環境を売り物にした土地に人を住まわせること

エ 森の木を切り拓き、そこに花やキノコのとれる住宅地を作っていくこと

オ 森を自然公園とし、日本人の自然に対する知恵を活かして世界の観光客を案内すること

4 線④「日本人の力量」とありますが、筆者は具体的にどのようなことを「力量」といっていますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 日本人の空手の技術が他の国に比べ勝っていること

イ 日本人の探検家としての技術の見事さ

ウ 日本人の自然とともに生きる技術のすばらしさ

エ 日本人の若者の冬山でも生きられるたくましさ

オ 日本人がルパン島の中で生き延びられたこと

5 線⑤「自然音痴」とありますが、これはどのような意味ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自然の中に入って、方向がわからなくなること

イ 自然の中の植物や動物の名前を知らないこと

ウ 自然の美しさに感動する心がなくなっていること

エ 自然を活かして生きることができなくなっていること

オ 自然を破壊するようなことをすること

6 線⑥「自然の多様性」とありますが、この多様性が具体的に書かれている部分を文章中から二十字程度で探し、最初の三字を書きなさい。

7 次の文の中から、この文章の内容と合っているものをすべて選び、記号で書きなさい。

ア 都会の人々を苦しめる花粉症の原因の一つは、森林の手入れをしなくなったことだ。

イ 山や森を持っている企業がビジネスを優先させて、植林に取り組むべきである。

ウ 「私」は日本国籍を取得したので、日本の自然のすばらしさや日本人を尊敬している。

エ 日本に生まれれば、だれでも探検家になるために大変な苦勞をしなくてすむ。

オ かつての日本人がみなもっていた自然の中で生き延びる技術を学ばなくてはいけない。

五、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

これまで私は、かなりの数の人たちに、「飼っていた金魚が死んだときどうしていますか」と尋ねてきた。大概は、いのちの教育をテーマにした講演会場でのことであるが、少人数でも人が集まれば、この質問を投げかけてみることにしている。

私の質問に、圧倒的多数の人は、死んだ金魚を土に埋めて簡単な墓標を作り、子どもと手を合わせたと答えた。回答者であるおとな自身が子どもだった頃、やはり自分の親にそのようにしてもらったから、という意見が多かったと思う。

しかし最近、そうではない意見がいくつか出てくるようになった。「集合住宅に住んでいるので、金魚を埋める場所がないので困る」と言うのである。それではどうしているのですか？ と問うと、いくつかの答えが返ってくる。

一つは、死んだ金魚は新鮮な魚だから猫に食べさせたというものである。食物連鎖にもなって、金魚のいのちを無駄にしない方法だという考え方のだろう。別の方法としては、生ゴミとして捨てると言う人たちもいた。魚の食べのこしは生ゴミとして捨てるのだから、死んだ金魚もそれほど大きな違いはないと言うのである。

きわめつけは、トイレに流すという「処理」の仕方だった。それをはじめて耳にしたとき、私はなぜか背筋がゾツとする嫌悪感に襲われた。講演会の会場を埋めつくした人たちからも、^① 大きなどよめきが沸き起こった。多くの参加者のその反応からも、私の感じ方に同意する雰囲気を感じ取れた。しかし、トイレに流すと答えた当の本人は、なぜ自分の意見がそんなに非難めいた反応を引き起こすのか理解できないという表情で、それ以外に方法がないのだから仕方ないと言う。

私としては、これまで家族で見守り、かわいがり、育て、一緒に暮らしてきた金魚を、^②A や ^②B の餌にすることには、すんなりと受け入れがたいものがある。ましてやトイレに流すなど、とても考えられない。

そんな親の行為を子どもたちが目撃したら、どんなふうに感じるだろうか。ある子は金魚の悲惨な最期に衝撃を受けるかもしれない。また、ある子は動物が死んだらこんなふうに処理すればいいのかと、学習するかもしれない。しかし、そんな「衝撃」や「学習」が子どもの人格形成に将来どんな影響を及ぼすのか、考えたことがあるだろうか。

死んだ金魚を平気で生ゴミとして捨てたり、トイレに流す親たちが増えている現状に、^③ 今のどこか生気のない無表情な子どもたちの顔が重なった。

ところが、二〇〇五年の秋にカナダで開かれた、小・中学校の教員を対象にしたいのちの教育のワークショップに参加したとき、私は^④ 思わぬカルチャーショックを受けることになった。日本におけるいのちの教育の現状と課題について、私も短い講演を行った。さまざまな質問が出され、大いに充実した時間を過ごしたのだが、参加者の関心が高かったのは「金魚の墓」についてであった。

私は日本の状況を説明するつもりで、一例として、金魚の墓を作らずトイレに流してしまうことが起こりはじめていると述べた。しかし、カナダの人々の反応はまったく予想に反するものだった。「日本人は、本当に金魚の墓を作るのか？」と、まじめに質問してくるのである。そのこと自体が、カナダ人にとっては大変な驚きだったのだ。

では、カナダではどうするのかと聞いてみて二度びっくりであった。トイレに流すのが普通なのだという。帰国後、人づてに聞いてみると、あんな広大な土地を所有するアメリカでもそれが一般的らしい。

しかしその後、二〇〇六年三月に(注3)フィンランドにいのちの教育の実態を調べに出かけたときは、少しほつとする展開になった。フィンランドの小学校の先生方に、日本とカナダの死んだ金魚のあつかい方の話をしてみたところ、彼らは日本のやり方が当然であって、(注4)北米のやり方はおかしいと首を傾げたからだ。

このように、文化や伝統、宗教、歴史的背景によっていのちのあつかい方や考え方には大きな違いがあるのである。北米の人たちが金魚の死骸を平気でトイレに流すからといって冷酷な民族だとは言えない。いまだに動物をいけにえの儀式に使っているところはいくらでもある。金魚の墓を作る日本人がイルカやクジラを食べるとはけしからんと、諸外国から非難される。つまり、⑥「いのちの線引き」の仕方が文化によって違うのである。それを踏まえればなおさら、いのちの教育の理論や方法を考えていく際に、ただ単に外国のやり方や考え方を批判したり、⑦「自覚に取り入れることであってはならない、と思うのである。

(近藤卓『死んだ金魚をトイレに流すな』集英社による)

注1 ワークショップ Ⅱ 体験型の講座

注2 カルチャーショック Ⅱ 自分の文化とはちがう文化に接した時に起きるおどろき

注3 フィンランド Ⅱ ヨーロッパの北側にある国の名前

注4 北米 Ⅱ アメリカ大陸の北側の国であるカナダ・アメリカ

1 線×「大きなどよめきが沸き起こった」とありますが、これはどのような「どよめき」ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 集合住宅に住んでいる人がここまですべてきたかという「どよめき」

イ 今までに思いつかなかった合理的な始末の方法に感心した「どよめき」

ウ 日本もついに北米並の文化になってきたのかという「どよめき」

エ せつかくの金魚をなんともつたいないことをするのかという「どよめき」

オ 考えてみなかったようなひどいことをするものだという「どよめき」

2 ②A、②Bにあてはまることばを、文章中から②Aは三字、②Bは一字で書きぬきなさい。

3 線③「今のどこか生氣のない無表情な子どもたちの顔が重なった」とありますが、これはどのようなことをいっていますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 無表情な子の親は、そういうえはみんな金魚をトイレに流していると思い当たった。

イ 無表情な子の親は、大切にした命の悲しい終わりを見せているのではないかと想像した。

ウ 無表情な子の親は、金魚を飼っている間も大切に育てていないに違いないと確信した。

エ 無表情な子の親は、アメリカやカナダの文化を取り入れているのだろうと推測した。

オ 無表情な子の親は、確かに無表情で、動物の命には関心がないとはつきり理解できた。

4 線④「思わぬカルチャーショック」とありますが、この「カルチャーショック」はどこから起きていますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 金魚の墓を作ることが、世界でも日本人だけの行為であると初めて知ったこと

イ 日本だけでなく、カナダにも死んだ金魚をトイレに流す人が始めていると気づいたこと

ウ カナダでは、死んだ金魚はトイレに流すのが普通であると知らされたこと

エ 世界では、死んだ金魚を生き物として大切に扱われないのが普通であると分かったこと

オ 金魚は大切にするのに、なぜクジラは食べるのかと外国人に問い詰められたこと

5 線⑤「予想」とありますが、この内容はどのようなものですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 日本の「いのちの教育」の現状に課題があることを感ずること

イ 日本の「金魚の墓を作る」というよい文化に感ずること

ウ 日本人の動物に対する冷酷さに非難の声が高まること

エ 日本の「金魚の墓を作る」という文化に異論がわくこと

オ 日本の文化の意外な展開について、興味関心が高まること

6 線⑥「『いのちの線引き』の仕方が文化によって違う」とありますが、これは具体的にどのようなことをいっていますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 日本の古い文化ではクジラやイルカは食用とされていたが、金魚は食用とはされてこなかったこと

イ 日本では食料となるクジラやイルカは大切にされてきたが、食料とならない金魚は軽んじられていること

ウ 日本では金魚には墓を作るが、北米を中心とする外国ではクジラやイルカの墓を作る文化があること

エ 日本では飼っていた金魚の命は大切にされるが、外国ではクジラやイルカの命を重んじる文化があること
オ 動物が死んだ瞬間に大切にされなくなる文化と、死んだ後も大切にされ、墓を作るような文化があること

7 ⑦にあてはまる打消の意味を表す漢字一字を書きなさい。

②3A 国語解答用紙

8	7	6	5	4	3	2	1	一
							れ	

4	3	2	1	二

	小計
--	----

5	4	3	2	1	三

	小計
--	----

7	6	5	4	3	2	1	四

7	6	5	4	3	2		1	五
					B	A		

	得点
--	----

受験番号	氏名
A	